

した。要請書
一知事や19市長
して名を連ね

健康×ギョーザ 続々と市場投入

信栄食品

冷凍ギョーザ製造の信栄食品（松本市）は、「健康」を切り口に新商品のギョーザの市場投入に力を入れている。高野豆腐を使った低脂質・高タンパクの商品や、認知症の改善効果が期待されるという東南アジア産の「ジャワシヨウ」を使った商品と相次いで開発。健康意識の高まりと、固定概念に縛られない商品作りを推し進めている。

低脂質や高タンパク 食事配慮の需要に応え



高野豆腐の粉末を使っ
た「マッスルギョーザ」

・ニンニクを入れて通常のギョーザに近い味わいを実現し、固定概念に縛られない商品作りを推し進めている。

高タンパクで低脂質の「マッスルギョーザ」を2019年から展開している同社。これまで豚肉の代わりに大豆を使った菜食主義者向けの商品や、女性をメインターゲットにした「ミラ・ニンニク」の商品などを開発してきた。

信栄食品によると、新商品のギョーザでは初の「機能性表示食品」になった。商品に含まれる大豆由来のタンパク質（大豆ペプチド）とニンニク抽出物（ニンニクエキス）には、肥満気味の人の体脂肪率（BMI）と、高めの

コメ作況 県内「平年並み」

西日本は日照不足影響

23年産予測

コメ市況調査会社の米穀データバンクは7日、2023年産のコメ（水稲）の作況指数（平年100）が全国で101の「平年並み」になるとの予測を発表した。22年産の予測は100で同水準の見通し。天候に恵まれた地域があった一方で、西日本を中心に6～7月に日照不足が生じ、全体として平年並みを見込んだ。

長野県の作況指数は100の「平年並み」と見込んだ。予想収穫量は前年比200ト増の18万1400ト。県や農協グループなどをつくる農業再生協議会が昨年11月に決めた適正生産の「目安値」17万6705トを上回っている。

エラン 売上高12.4%増 6月中旬期

エラン（松本市）は7日、2023年6月中旬期の連結決算を発表した。高齢化が進む中、入院患者や介護施設の入所者などに日額定額で衣類や

の委員の1人は運動する方がまだ（事業者も）多い。決め方はこれ（と漏らす）と、第7弾。肉を使わず、ミラ（小内翔一）

の定期便の就航を計画している。互いの県を訪問したいが、6月6日（土）は



「マルケン」

ブランド立ち上げ

チーズや菓子開発など構想

ハナマルキ（伊那市）は7日、こうじを使って開発した商品を開発する新ブランド「ハナマルキ醸造」を立ち上げ、商品販売を始めた。商品販売を始めた。商品販売を始めた。商品販売を始めた。

こうじパウダー（業務用商品）を22年に開発。こうじを使った商品展開にはさらなる可能性があると判断し、新ブランドで開発を強化する。食生活が多様化する中、既存事業と新事業を両立させる「両利きの経営」（花岡俊夫会長）を進める。

今年、和食が国連教育料販売も計画し、高級即席みそ

県内情報リンク

★高見沢が期末配当予想を上方修正

高見沢（長野市）は7日、2023年6月期末の年間配当予想を上方修正した。22年8月公表の1株につき25円から50円に修正（前期は25円）。県内の護岸工事などの公共工事が進んだことや、新型コロナウイルスが落ち着き電設資材の受注が増えたことが要因。

県内企業 四半期決算

CSセツトを導入する病院や介護老人保健施設などは、昨年12月末から1～11施設増えて217施設となった。エネルギーコストの増加や紙おむつの仕入れ金額の上昇を十分価格転嫁できず、利益率が低下した。経常利益は同5・1%増の18億1300万円、純利益は6・4%増の12億5300万円だった。

23年12月期の売上高は前期比20・5%増の437億1千円、経常利益は6・1%増の36億2千円、純利益は20・0%増の25億円に変更していない。